心豊かに表現する生徒の育成（2 年次）

～造形的な視点に基づいた「表現」と「鑑賞」のつながりを大切にした学習指導の在り方～

矢吹　怜美
Satomi YABUKI

概要

1 年次研究では，副題を「造形的な視点を大切にした学習指導の在り方」とし，今までの学びから知識のつながりに気付き，よりよい表現につなげることのできる生徒の育成を目指して，造形的な視点の認識を高める工夫，それをもとに発想・構想を振り返る場面を設定した。2 年次研究では，表現領域と鑑賞領域のつながりについて，造形的な視点に基づいた学習場面を設定することで，他との交流場面や自己の構想の中で，より心豊かな表現や鑑賞ができると考える。

キーワード：メタ認知，造形的な視点，知識のつながり，鑑賞をつなげる工夫，「表現」と「鑑賞」のつながり

1. はじめに～研究の目的

学習指導要領（2017 年 7 月）では，様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと，複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。[*1] また，生涯にわたって能動的に学び続ける生徒等が求められており，これまでの学校教育の蓄積を生かし，学習の質を一層高める授業改善の取組が求められている[*2]。

このため「生きる力」の三つの柱に沿って，各教科等の目標や内容の整理がされるとともに，生涯に渡って能動的に学び続けることができるようするために，「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている[*3]。

美術科でも，今までの学習指導に加え，「感性や想像力等を豊かに働かせて，思考・判断し，表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや，生活を美しく豊かにする造形や美術の働き，美術文化についての実感的な理解を深め，生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等」について，更なる充実が求められている[*4]。

これらを踏まえ，本校美術科では心豊かに表現する生徒の育成を目指し，造形的な視点を大切にした学習指導の研究を行っていく。

2. 生徒の実態（1 年次研究の成果と課題）

本校美術科の 1 年次では，どのような方法をとれば「知識構築のプロセス」をたどることができるのかということを実践研究した。主題を表現することは，選択の連続である。まず主題を選び取ることから何に価値を見いだして選ぶか，という選択を行う必要がある。そこから，主題をどのような全体のイメージで，どのように表現していくか一つ一つ構想し，選択し続けながら表現していくことになる。そのため，どれだけ表現したいという思いがあっても，選択肢が少なければ表現の幅は自ずと狭くなり，その思いもしぼんでいってしまうのではないだろうか。そこで，心豊かに表現するためには，まず選択肢を作るための知識が必要だと考えた。

1 年次では，造形的な視点で第 1 学年から第 3 学年へのつながり，その前の小学校の学習内容から中学校の学習内容へのつながりを各題材間で相関させられるように設問や提示，交流の仕方の改善を重ねた。また，それらを記録に残し，知識発見から知識構築へつなが

るような場面を設定した。その結果，造形的な視点への認識が高まり，交流場面で造形的な視点から説明する場面が見られたり，前題材とのつながりに気付いた発言の増加がみられた。

しかしながら，以下のような課題も出てきた。

・「鑑賞」で，造形的な視点のつながりを意識しやすい授業のつくりになっているわけではないこと。
・生徒のアンケート結果から，「表現」と「鑑賞」がつながっているという認識が薄いこと。

以上のことから，表現領域と鑑賞領域のつながりについて，造形的な視点に基づいた学習場面を設定することについて深く追究することが肝要であると考えた。

2. 1. 目指す生徒像

本校美術科では，生徒の実態を踏まえ，2 年次研究の目指す生徒像を以下のように捉え直した。

・今までの学びとのつながりに気付き新たな知識を積み上げる生徒
・見出した価値を知識のつながりと結びつけることができる生徒

3. 研究主題

造形的な視点を通して，振り返ることは，自己調整的な学習，特にメタ認知においても重要である[*6]。美術でいうと，生徒のもっている主題が『動機づけ』(どう考えているか)，発想や構想の考え方が『学習方略』(どう取り組むか)，作品に取り組む過程が『メタ認知』(どうなっているか)にあてはまる[*7]。以上のことから，自己調整的な学習を参考にしつつ，研究主題を次のように設定した。

心豊かに表現する生徒の育成(2 年次)
～造形的な視点に基づいた「表現」と「鑑賞」のつながりを大切にした学習指導の在り方～

本校美術科では,美術科で培った資質・能力，つまり生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力をどのような方向性で働かせていくかに重点を置いて研究を進めていく。

特に「心豊かに表現する」という部分では,学習指導要領で,「学校外の生活や将来の社会生活も見据え,生活や社会を造形的な視点で幅広く捉え,美術の表現や鑑賞に親しんだり,生活環境を美しく飾ったり構成したりするなどして,心潤う生活を創造しようとする態度を養うこと」と記されている[*5]。

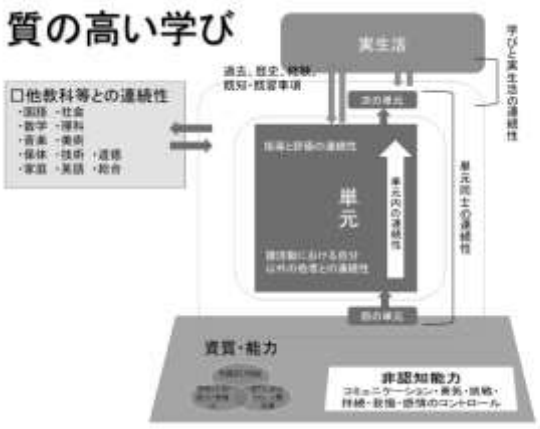
生徒の実態より，このような態度を養うための土台を育み豊かにしていくことが必要だと考える。この土台,つまり表現活動や鑑賞活動といった体験的な学習を通し，知識を発見したり,身に付けた知識のつながりに気付き別の場面で活用したりすること，それを造形的な見方・考え方で振り返ることを大切にしていくことで意欲が高まり，心潤う生活を創造しようとする態度が養われていくと考える。

ここでいう造形的な視点とは,造形を豊かに捉える多様な視点であり,形や色彩,材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり,全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点のことである[*8]。この造形的な視点を手掛かりに，生徒が日常生活や社会の中の美術の見方・考え方に気付き，それらを心豊かに表現していくことを目指す。

4. 研究の内容と方法

本校の 2 年次研究においては，生徒の実態やこれからの時代の潮流を踏まえた「質の高い学び」に向かうために，様々な側面から「連続性」というものを考えることが重要であると捉えている。

本校研究の構造図は以下である。

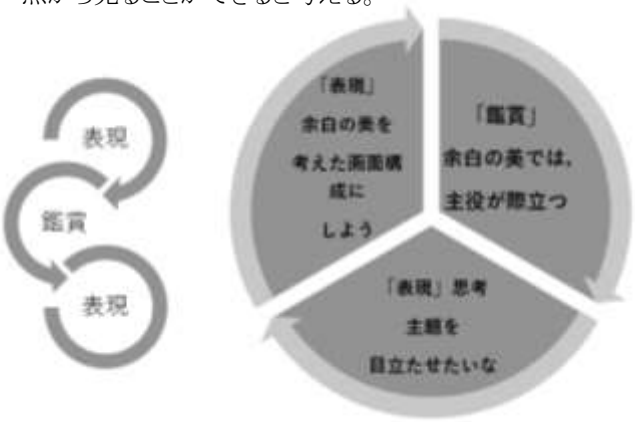


この中で，本校美術科では，特に「単元(題材)同士の連続性」に焦点を当てて実践研究を進めることとした。これらが，目指す生徒の育成に向かう上で特に重要な視点であると考えた。

4. 1. 鑑賞と表現をつなげる工夫

今まで身に付けた知識を生かし，自ら考えるためには，知識が自力で取り出し可能であることが前提条件としてあり，まず身に付けた知識の存在を認識させることが必要である。その前提条件をクリアして初めて前の題材と今の題材の共通点に気付き，知識のつながりを生かすことができるようになると考える。その知識のつながりに気付かせるために〔共通事項〕や造形的な視点に着目させる。

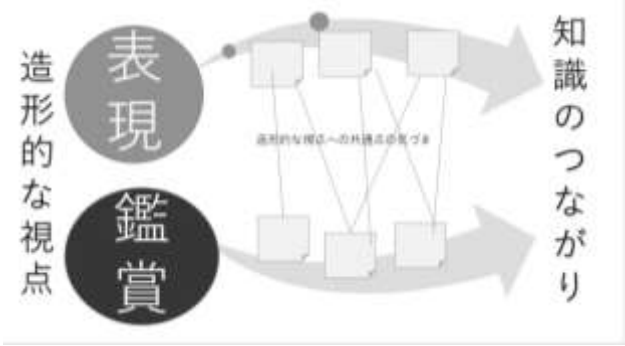
表現と鑑賞のつながりをよりスムーズに行うために，造形的な視点を意識させるような学習指導を鑑賞の学習で行っていく。例えば，鑑賞部分では，絵画を鑑賞した際，「なんで何も描いてない部分があるのだろう」「何故かあの部分が目立つ」等，感想を抱く。そこに着目した理由を，どうしてなのか考えたり交流したりしていく。その際，造形的な要素から根拠を考えていく活動・視点を定めることに重点を置く。そうすることで，鑑賞の際の造形的な視点が培われる。そして，表現の際に造形的な視点から自身の構成を振り返った際に鑑賞で培った視点から見ることができると考える。

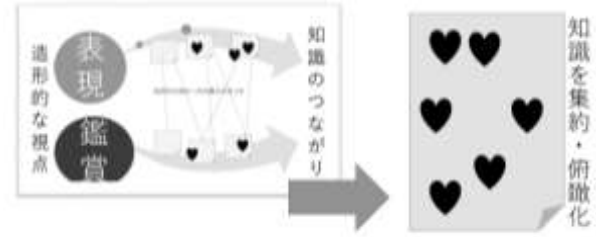


例：余白の美についての A 君のイメージ

4. 2. 表現と鑑賞の知識をつなげる工夫

２つ目は，知識のつながりを図る取り組みである。「表現」で体験したことや「鑑賞」で気づいたことを造形的な視点や共通事項に基づいて考えさせる活動を行う。経験が積み重なるに従い，「表現」でも「鑑賞」でも，造形的な視点という共通点に気付く。他者の作品を見て，別の活用法も理解する。それらを知識の積み重ねの集大成にすることで，知識・体験を俯瞰（メタ認知）し，知識をつなげることができると考える。さらに，それらが結び付けられると，知識の構築化が図れる。





5. 実践と考察

「感謝の気持ちをカードで伝えよう」

【A 表現】(1)イ(イ) (2)ア(ア)
【B 鑑賞】(1)ア(イ)
［共通事項］ア(イ) (ウ) (エ)

5. 1. 題材の構想

本題材における実践を行うにあたり，第 1 学年の生徒を対象に，鑑賞や図画工作についてのアンケートを行った。それを通して，以下のような意識があることがわかった。

６月に実施した美術科アンケートでは，小学校の図画工作の授業で独立した授業として作品を「鑑賞」する体験をしたことが全くない生徒は 35%，鑑賞したときの着眼点として，「色」「形」などの造形的な視点をあげた生徒は 7%だった。

これらのアンケート結果から，「鑑賞」に不慣れであったり，「表現」と「鑑賞」の関連性の認識が薄いため，相互に生徒の活動に反映されにくいことがわかった。そのため，「鑑賞」と「表現」が相互につながりやすい授業設計の必要性を感じた。

本題材では，以下の工夫を行うことで，受け取る人の気持ちを想像しながら,形や色彩，紙の性質を生かした表現の構想を練ることを目指した。

① 鑑賞とつなげる工夫
② 知識をつなげる工夫

鑑賞とつなげる工夫では，前表現題材で完成作品を交流した際に，「色・形」等の造形の要素に着目するよう設問した。また，鑑賞題材では，基本的な構成について考える学習を行った。それを踏まえ，本題材では，その知識をつなげていけるよう，鑑賞題材を生かした例を教師側から提示し，伝わり方を工夫した構成を考えさせていく。「色」「形」「素材」というキーワードを使って，「鑑賞」と「表現」の学習を行き来することで，自身の「作品」では「色」「形」「素材」がどのように働いているか，その結果自分の表現したいことが伝わっているか確認するきっかけとなると考えた。制作場面では，「色」と「構成」について鑑賞を振り返り、自身の作品を再確認し，気持ちが伝わりやすい構成になるよう工夫を促した。

知識をつなげる工夫では，紙の様々な加工方法を試す。そこから，紙という素材の性質や加工のしやすさに気づき，どのように自身の感謝カードに生かしていくか構想の時に考えられる材料にした。技能面で苦手意識のある生徒も意欲的に活動できるように，簡単な加工方法を例示したり，chromebook の検索ワードを工夫したりして生徒の制作への関心をもたせるようにした。

また，「紙」という素材について，体験したこと・気づいたことをまとめシートに残すことで，制作途中で視覚的に振り返ることができ，発想の幅が広がると考えた。

また，受け取る人へインタビューすることができるよう時間の間隔を空け、情報を豊富にすることで，より発想・構想がしやすくなると考えた。

なお，本題材の指導計画は以下である。

時	学習内容	評価規準
1	○題材の見通しをもつ 〔工夫②〕	態
2 3	○カード制作に向けて発想する ・誰に感謝を伝えたいかを考える。 ・紙の様々な体験 〔工夫②〕	知
4 5	○カードの構想に向けて,紙のよさを理解し，構想を練る。 ・紙の様々な加工体験 ・アイデアスケッチとカードの試作 〔工夫①②〕	思
6～10	○カードの制作 ・学習内容を生かし,表現を工夫しながら制作する。 ・受け取る側の気持ちを想像しながら制作する。 〔工夫①②〕	知 思 態
11	○鑑賞・まとめ	態

5.2. 授業の実際

本題材では，感謝の気持ちを考えるところからスタートした。1時間目では，どんな場面で感謝を感じたか，そして誰に感謝を伝えたいか具体的に思い出す時間を取った(図 A)。また，知識を生かせるよう今まで使用した紙について意識して振り返ったり，どのように感謝を紙であらわすのか参考例を見て見通しをもてるようにした。

図 A：マッピングを用いて感謝の気持ちと造形的な視点をつなげる工夫

2・3 時間目では，対象者についての取材をもとに感謝を伝えるモチーフのアイディアを増やしたり，紙の様々な加工方法や紙の素材ごとの違いについて試す活動(図 B)を行った。同じ加工方法でも，様々な紙の種類・色・形で試すことで，より自分のイメージに合うのはどれか考えられるようにした。

図 B：試しの積み重ね

4･5 時間目は，自分のイメージを相手に伝えるためにはどの表現が一番よいか，前題材の「鑑賞」など今までの活動をもとに取捨選択を行い，アイディアを形にする活動を行った。前題材の「鑑賞」では，ノーマン・ロックウェルの「通行止め（交通渋滞）」[*8]の鑑賞を行った。この作品は，76×58.5 ㎝の縦長の作品で，作品の中心部分には大型車，その周囲には人だかりができており，人々の視線の先には大型車の前に座っている仔犬がいる絵画である。鑑賞の時に生徒から出てきた「絵の真ん中にいるから仔犬が目立つ」「指で何かを指したり顔を向けたりしているので人々が何をしているのか気になった」等の感想を振り返り，目立ちやすい配置や色彩，形があることを確認することで，自身の作品に生かせる部分がないか考えるよう促した。

また，途中交流では，自身の一番伝えたい感謝のメッセージを他者に説明したり感想をもらうことで，感謝の気持ちが伝わりやすいかどうか確認する時間を取った。

6～10 時間目では，構想をもとに実際の制作に入った。

11 時間目では，制作物をもとに交流を行い，ほかのアイディアを取り入れるとしたらどうするか，自身や他の作品のどの部分がよかったか造形的な視点をもとに振り返る活動を行った。 以下が振り返りの生徒の記述である

〈生徒による振り返り記述〉

- 色…虹の色使い，形から明るく爽やかな雰囲気が出ている。
- 形…クラッカーの出てきているものを手でちぎっていて本物みたい。
- 色…暖色系が多くとてもあたたかい雰囲気が伝わった。
- 素材…緑色の紙を重ねて貼ることで生い茂る草をわかりやすく表している。
- 素材…折り紙のよさ（折れる）を使ってリスをつくっていて器用だなと思った。
- **メインのものが目立つよう，飛び出す仕組みのところは背景の色にするとよいと学んだのでいろんなことに活かしたいです。…生徒 C**

生徒の振り返りからは，造形的な視点をもって思考している様子（全体の 92%）や，鑑賞で気づいたことを自身の作品に生かしている様子（全体の 81%）がみられた。

6. 今年次研究の成果と課題

本校美術科では，今次研究の主題を「心豊かに表現する生徒の育成」とし，研究をスタートさせることとした。本稿では，これまで 2 年次研究について述べてきたが，いかに本研究の成果と課題，および今後の展望を述べる。

6. 1. 研究の成果

本校美術科の 2 年次研究では，副題を「造形的な視点に基づいた『表現』と『鑑賞』のつながりを大切にした学習指導の在り方」とし，今までの学びとのつながりに気付き新たな知識を積み上げ，見出した価値を知識のつながりと結びつけることができる生徒の育成を目指した。

鑑賞をつなげる工夫では，鑑賞の学習から理解を深めたこと，例えば配置の方法を自身の作品に生かす姿を見ることができた。知識をつなげる工夫では，題材ごとに少しずつ素材や色彩についての知識を増やし，自身の作品に生かす姿を見ることができた。例えば、生徒による振り返り記述(生徒 C)では、鑑賞で感じた「色の差異によって目立ちやすさが変わる」という気付きを、制作場面で一番伝えたいものが目立つように仕掛けを背景と一体化するように色を工夫する等、生かすことができた様子が見られる。

図 C:生徒 C の作品

また、生徒 D は、理科っぽさを強調するためにロケットをフラスコの前面に飛ばす構図を思いつき実行した（図 D）。しかしながら次の時間、理科っぽさの強調に成功したものの、主題である「感謝を伝える」という面に立ち返り、より思い出に近いフラスコを目立たせるためにロケットを左端に配置し直した（図 E）。

図 D：生徒 D のロケットを前面に出した様子

図 E：生徒 D のフラスコを前面に出した様子

以上から，「鑑賞」と「表現」は別個のものではなく，お互いにつながりのあるものだという認識を高めることができたと感じている。また、「表現」と「鑑賞」で気づいたこと・得た知識を使って色や構図等を工夫し、より自分の伝えたい思いを表している様子が見られた。

6. 2. 研究の課題と今後の展望

以上の成果があった２年次研究であったが，その一方で課題もいくつか見られる。

例えば，今回は同一素材の紙に注目して理解を深めていったが，そのほかの素材や道具についても知識としてつながりをもてるようにしていくと，より心豊かに表現・鑑賞を行うことができると感じている。また，「鑑賞」「表現」の両面で造形的な視点をより取り上げることで、表現と鑑賞とのつながりを結び付けやすくしたいと考えている。最終年度にむけて、生徒がより心豊かに活動できるよう取り組んでいきたい。

注釈

*1　学習指導要領美術編 p.1

*2　学習指導要領美術編 p.3

*3　学習指導要領美術編 p.3

*4　学習指導要領美術編 p.6-7

*5　学習指導要領美術編 p.19

*7　参考文献(8)

*8　参考文献(9)

参考文献

(1)森本信也「子どもの論理と科学の論理を結ぶ理科授業の条件」東洋館出版社.1993

(2)北海道教育大学附属旭川中学校.「研究紀要(67)」

(3)北海道教育大学附属旭川中学校.「研究紀要(66)」

(4)文部科学省.「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説美術編」.2017

(5) 伊藤　崇達.「BERD　13 号「自ら学ぶ力」を育てる方略-自己調整学習の観点から-」Benesse.2008

(6)中山芳一「学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす」東京書籍.2018

(7)R.リチャート.M.チャーチ.K.モリソン「子どもの思考が見える 21 のルーチン」北大路書房.2015

(8)北海道教育大学附属旭川中学校.「研究紀要(68)」

(9)日本文教出版株式会社.「美術 1」. 2021